

今治市公会堂

今治市公会堂は、丹下健三（1913年～2005年）氏が今治市のために設計した3つの公共建築物のひとつです。1958年に公演スペースやホール会場として建てられた今治市公会堂は、今治市役所の向かいにあります。どちらの建物も同時期に設計・建築され、両者間のスペースは公共広場と駐車場になっています。

角度のついたコンクリートの戦艦のような建物である今治市公会堂は、丹下氏の初期作品の素晴らしい実例です。スイスのモダニスト、ル・コルビュジエ（1887年～1965年）氏の影響を受けた簡素で飾り気のないコンクリート使いは、典型的な丹下氏のスタイルといえます。広島平和会館といった氏の他の建築物とは異なり、今治市公会堂にも、市役所にも、構造を支えるピロティ（支柱）は使われていません。これは、丹下氏の、訪れた人々が1階から妨げられることなくアクセスできるようにとの考えによります。その代わりに今治市公会堂には、折り紙の折り目を連想させる三角形の補強が壁に使われています。

先を尖らせた支柱が反った屋根を支え、大きなコンクリート・ホールを作り上げています。屋内にも、壁に三角のモチーフが続き、勾配のある聴衆席の床が、ロビーの傾斜したコンクリート天井になっています。丹下氏は簡素な素材で美しいデザインを創造することで知られていましたが、その才能が今治市公会堂でフルに発揮されています。磨き仕上げを施した木製の座席と手すり、磨き仕上げのコンクリートと調和しながらも、それらが所々で壁やカーテンのハツとするような緋色に変わります。今治市公会堂は、座席数は約1000席で、2013年に改修されました。とはいえ、建物に丹下氏の影響が色濃く残っているのは明らかです。